

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

## 記念誌

# あったかウェルねっと 22年のあゆみ



あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

# 目次

あいさつ -----	1 ページ
祝辞 -----	2~5 ページ
22 年のあゆみ(2001~2022 年度) -----	6~29 ページ
22 年間の足跡~これまでの活動から~ ----- ~変わらぬ想い~ 埼玉県「学校と民間の共同プラン開発事業」 日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 27 回「埼玉大会」 活動を伝えるパネル まなびばしゃべりばカフェ・研修会ちらし	30~35 ページ
若者への福祉教育研究会の発足 -----	36~38 ページ
あったかウエルねっと活動概要 -----	39 ページ
巻末に寄せて ----- あったかウエルねっと継続の秘訣 活動を振り返って	40~45 ページ

# あいさつ

## 「福祉教育・ボランティア学習」は自分づくり・仲間づくり・幸せづくりの架け橋

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
(あったかウエルねっと) 代表 横田八枝子

みなさま、こんにちは。あったかウエルねっと 22 年の歩みについての記念誌が出来ました。

この度の記念誌発行にあたりましては、県社協そして原田正樹先生はじめ多くの先生方からも温かく力強いお言葉を賜り有り難い限りです。長きに亘りご指導くださった皆々様に心よりお礼申し上げます。

私達は 2001 年の設立より、共に福祉教育・ボランティア学習に取り組む仲間として、継続的に学習と実践を創造してまいりました。これまで関わらせていただいた全ての方々とのあたたかな出会いと大切な学びが、実践 22 年の県域での大きな原動力になったと思います。

22 年の歩みを顧みると、様々な節目を緩やかに受け入れ、皆で試行錯誤しながら推進してきた「福祉教育・ボランティア学習」は、自分づくり・仲間づくり・幸せづくりの架け橋になり、あたたかな繋がりが、推進員だけでなく、たくさんの市民を、そして埼玉県の優しさを育ててくれました。しかし予測できなかったコロナ禍での試練からポストコロナの時代となりましたが、これまで以上に人と人の出会いを大切に考え、オンラインでは画面越しながらも、皆で知恵を出し合い、一人一人が「普段の暮らしの幸せ」を享受できるよう、新たな世代の声も聴きながら、ともに歩を進めていきたいと存じます。

これからも、誰もが地域で自分らしく幸せに暮らせる「共生社会の実現」に向けて、皆々様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

最後に、22 年の歩みを編纂するにあたり、事務局長須田さんのご尽力に感謝します。

## 福祉のこころを裾広く

相談役(代表代行) 坪井敏衛

「あったかウエルねっと」が創設 22 年になります。早いものだという思いと共に、その一年一年の中身は濃いものがあるという実感があります。「ふくし」は喫緊の課題が身近にあり感傷に浸る暇などありません。関心を持たなければ、学ばなければ見えてこない福祉の課題を解決していくためには、「ふくし＝ふだんの暮らしのしあわせ」の大切さに気づき行動できる人を一人でも多く増やしていくことが肝要です。

設立時の「あつい想い」が今日のあったかウエルねっとに繋がっています。県社協主催の推進員養成研修終了後の横田さん(現ねっと代表)の呼びかけを今でも鮮明に覚えています。「この研修で共に学んだ皆さんがゆるやかに連携し、共に学び合い、スキルアップを図る県域のネットをつくりませんか」という強い想いです。また、視覚に障害のある故松嶋文雄さんの明るく前向きな交流姿勢から多くのことを学びました。ご指導いただいた原田正樹先生等の継続的な後押しも心強いものがあります。県社協、市町村社協のご支援も不可欠です。

いろいろな立場の人が互いを尊重し、学び合い結びつく姿勢は一貫しています。2016 年以降は「若者への福祉教育研究会」とコラボし、福祉教育実践プログラムの見える化と普及に取り組んでいます。これからも地域で幸せに暮らすために、「共に生きる」双方向の学びに尽力していきたい。

# 祝辞

## あったかウエルねっと設立 22 周年によせて

埼玉県社会福祉協議会会長 山口宏樹

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(通称:あったかウエルねっと)が設立 22 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

あったかウエルねっとは本会が実施した「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」の修了者有志によって 2001 年に設立されました。この間、長きにわたり福祉教育・ボランティア学習に取り組んでこられたことに深く敬意と謝意を表します。

広く市民や障害のある当事者など様々な立場の方が主体的にネットワークをつくり、学校や地域における様々な福祉教育活動の展開、さらには多様な方々との出会い、共に学ぶ場としての「まなびばしゃべりばカフェ」の実践は、あったかウエルねっとの一番の特徴であり、他に例のない先進的かつ大変素晴らしい取り組みです。

このような、福祉を“**ふだんの ぐらしの しあわせ**”と捉え、“ふくし教育”として、多様性を認め合い、「ともに生きる力」を育む皆様の活動は、まさに、共生文化の創設と言えます。

本会では、“つながりをチカラに”を基本理念とし、これからも皆様とつながり手を携えて、福祉教育を推進してまいります。

結びに、あったかウエルねっとの今後益々の御発展と、皆様の御活躍、御健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 共に学びあう実践モデルとして

日本福祉大学 原田正樹

あったかウエルねっとのあゆみは、新しい福祉教育実践の歩みでもある。あったかウエルねっとの学びは、常に仲間のなかで、お互いに学び合うという相互作用が起こっている。それは公式な学習の機会もあれば、非公式な懇談(飲み会)のときもある。共に生きる社会を実現しようと、メンバー一人ひとりが想い、それに少しでも近づこうとするときに学びが起こるのである。つまり学習のための学びでなく、実践を広げていくための学びであり、実践を通して学びが深まっていく。埼玉県内だけではなく、全国において福祉教育を広げる運動のネットワークを広げてきた。

その学びの過程で、メンバーの人間関係が深まってきたのである。いつも言うが、私はあったかウエルねっとの飲み会が好きだ。いろいろな人たちが、それぞれの障害を乗り越えて笑い合い、お互いを気遣いながら美味しく食べて、酔っぱらう。なんて素敵な空間だろう。そのなかで私たちは、たくさんの仲間を得てきた。今は亡き彼ら、彼女からもたくさんのことを教わってきた。協同実践だとか、プラットフォームだとか、相互実現など、わかったようなことを言っているが、これらはみんな、あったかウエルねっとから紡ぎ出された実践知だと思っている。これからもよろしく申し上げます。

## たゆまぬ学びを実践につなぐ歩みを続けて 22 周年おめでとうございます

十文字学園女子大学 佐藤 陽氏

22 周年おめでとうございます。活動の始まりから共に福祉教育・ボランティア学習に取り組む一人として、「あったかウエルねっと」が継続的に学習と実践の機会を歩み続けていること、本当に素晴らしいと思っています。これまで関わらせていただいていること感謝申し上げます。

メンバー 1 人 1 人が共に生きる社会のなかで「ふだんのくらしのしあわせ」をめざし、各自の地域における実践を基盤に、広域に多様な立場の人たちと協働しながら、本当に多様な学び合いの機会をいくつも発信され、意欲的に取り組んでいることが「あったかウエルねっと」の柔軟な強さの原動力になっているのではないかと思います。

現在は県社協と協働した事業展開もなされ、推進員研修なき後、学びや実践方法を必要とする人を支え、研究者や実践者等、さまざまな人材を活かし、結び付け、プラットフォームの中間支援組織のような役割も担っているように思います。

常にその時々が必要となることを先取りし、歩み続けているのは、事業を常に見直し、さまざまな人の見解を吸収し、自らも内省し、新たな事業を試み、多くの新陳代謝を繰り返しているからこそ、活動が豊かに実施されているのだと思います。

少しずつ新たな世代のエネルギーを取り入れながら、今後も「あったかウエルねっと」が時代のニーズに応え、共生社会の実現に向けて発展されることを心から願っています。

## 癒しと支えあいと希望の大木—あったかウエルねっと

東京国際大学 松本すみ子

創立 22 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。団体の愛称にこめられた「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいとの願いに、真摯に向き合い続けてきた 22 年間。長きにわたり、福祉とは何かを考え続け、効果的な福祉教育を展開しつづけてきた貴団体の功績は計り知れません。

埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修を修了し「推進員」に認定された方々によって芽生えた小さな若木は、その幹や枝を成長させつづけ、今や大木となりました。そして、その枝ではたくさんの鳥たちが疲れた羽を休め、地面に広がる涼しい木陰にはたくさんの動物たちが集います。「困った」「しんどい」「生きづらい」などなど、時に私たちはこうした思いに直面しますが、誰もが頼れる場、そして、たくさんの人たちが集まる場として、支える・支えられる立場が固定されないゆるやかで温かい関係性の中で、考え、話あい、行動する場となりました。

地域にとって、埼玉にとって、そして日本にとって欠かすことのできない存在として、どうぞ引き続き、羽を休め、たくさんの人たちが集える癒しと支えあいと希望の大木でいてください。今までの 22 年間での多大な功績を讃えるとともに、今後ますますのご発展を心より祈念いたします。

## 共生の文化の創造をめざす「ふくし」の当事者たちのプラットフォーム

日本大学 諏訪 徹

あったかウエルねっとの創設22周年おめでとうございます。

どんなに社会福祉制度が整備されても、「ふくし=ふだんのくらしのしあわせ」を根底で支え、実現するのは、ふくしは自分たち自身のくらしや生き方の問題だと考えて、ふくしの当事者として行動する一人一人の市民です。

ウエルねっとは、障害の有無とか、福祉専門職かどうかといった立場を超えて、ふくしについて一緒に考え、行動する市民たちが、福祉教育・ボランティア学習の推進を目的に設立した、全国でも稀有な団体です。ウエルねっとの皆さんのプログラムは、アプローチはさまざまですが、それぞれのしっかりしたふくし観に根差し、地域で共に生きることにつながっていく素敵なものばかり。いつも感嘆しています。

そして、誰一人取り残さない共生の価値に根差したウエルねっとは、ふくしの学びあいを大切に考える人たちのつながりを県内各地で作りだし、社会課題の解決をめざすさまざまな分野の実践をつなぐプラットフォームです。それは、福祉教育・ボランティア学習推進の本来あるべき形を体現しています。

これからも、あったかウエルねっどが共生の文化の創造をめざす、ふくしの当事者たちのプラットフォームとして、同じ志をもつ人々の輪を広げていくことを大いに期待します！

## 市民と共に歩む「あったかウエルねっど」

文京学院大学 中島 修

創設22年の記念誌の制作おめでとうございます。

あったかウエルねっどの活動は、いつも福祉教育は市民と共にあって、市民の視点を大切にしなければならぬことを気づかせてくれます。社会福祉の政策動向の変化や孤独・孤立対策が指摘される世の中にあっても、「市民が何を学び、何を必要としているのか」という問題意識と福祉教育・ボランティア学習が、常に近くにある実践は、埼玉県内の福祉教育・ボランティア学習の実践を、本当に豊かにしていると思います。

「市民と共にあるとは何か」と言えば、それは「常に当事者の近くにいる」ということです。そして、「当事者の思いを発信することを大切にすること」を私は意味していると考えています。

現在、埼玉県社協が中心となって地域福祉推進プラットフォームの実践が展開されています。多くの社協職員がつながり、学び、その実践は社協職員の活動に深みと幅の広がりを生み出していると感じています。このような実践の背景にも、あったかウエルねっどの存在があります。

常に、市民と共にあって、市民が学ぶ福祉教育・ボランティア学習を追求し続けてください。

## 22年に感謝を込めて

日本社会事業大学 菱沼幹男

埼玉の福祉教育力とも言える豊かな実践は、「あったかウエルねっ」とによって支えられてきました。それは当事者や支援者という立場を超えて、さまざまな人々がつながり、誰もが幸せに暮らせる社会に向かって、学びと交流を積み重ねてきた実践です。22年の足跡に心からの敬意と感謝を申し上げます。

これまでの取り組みを通して、たくさんの縁が生まれていきました。私自身も若者への福祉教育研究会等への関わりを通して、多くの方々の思いと実践に触れることができ、今振り返ると皆さんと過ごした時間は私にとって人生の宝物です。

かけがえのない尊い縁だからこそ、もっとももっとご一緒したかった方の旅立ちは、大きな悲しみとなりました。その生き方は、一人ひとりの声に耳を傾けることの大切さ、限られた人生における出会いの大切さ、学びによる人間の成長の可能性を伝えてくれました。その思いを引き継いでいくことは、出会った私達に託された生き方だと思います。

この22年間で福祉教育を取り巻く環境は大きく変わり、多様な実践も広がってきました。その一方でさまざまな生きづらさを抱えた方々が今も暮らしています。相手の意識を変えようとするような意識啓発型の福祉教育ではなく、相手の思いや暮らしに寄り添い、日々の生活を通して学びと交流を深めることができるような福祉教育が大切だと感じています。どうぞ皆様、お体をご自愛ください。ともにこれからの福祉教育を育ていきましょう。

## 河村美穂先生とあったかウエルねっ

若者への福祉教育研究会事務局長 牧野郁子

河村先生は、皆さんご存じのとおり、元々は家庭科の教員であり、自身のお子様に障害があったこともあり、「福祉教育」の重要性を感じて、福祉教育研究にかかわっていただいたと認識しています。

埼玉大学で教員養成に力を尽くされたと同じように、福祉教育推進にも大きな力をいただきました。特に、埼玉県内で活動している社協職員や障がいのある当事者の皆さんとのかかわりは、まさに教育者として、一人ひとりの成長を促してくれたと感じています。

あったかウエルねっの研修会や活動での講演や相談はもちろんのこと、あったかウエルねっのそれぞれの方々の福祉教育実践をプログラムに落として見える化をするにあたり、その枠組みや考え方をお示しいただきました。また、個別実践でも、アドバイザーとして、それぞれの福祉教育プログラムのブラッシュアップにかかわっていただきました。実践者自身やプログラムがのびるような指導を行っていただいたと感じています。中でも、発達凸凹当事者の故櫻井栄里さんとは2人3脚でプログラムの研究をしたと伺っています。これらの先生のご指導のおかげで、若者への福祉教育研究会の報告書をまとめることができました。

私自身も、上記の研究の前には、社協職員同士での実践研究会でも、毎回私たちが集まりやすい「若葉（鶴ヶ島市）」にお越しいただき、考え方や研究方法をご指導いただきました。その時に、「福祉教育的機能」が出てきて、社協活動には必ず福祉教育的機能が必要と考えるようになりました。

河村先生からは、今後も研究や福祉教育では力になっていただけるとのことです。これまでのご支援とこのような心遣いに心より感謝を申し上げます。



# 22年のあゆみ 2001～2022年度



# 2000(平成12)年度:設立前年のできごと

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク設立の前年である2000年に、埼玉県社会福祉協議会(以下、社協)の「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」(以下、推進員養成研修)が実施された。翌年、第1期修了生により県内推進員のネットワークづくりが始まった。

初年度の養成研修は7日間のプログラムで、県内の市町村社協より推薦された社協職員、教員、施設職員、ボランティア、障害を持つ人などが研修を重ねた。当時のプログラムと実施要領を掲載する。

2002年資料となるが、参考にご覧頂きたい。

## 12. 平成14年度 研修内容

期日	時間	科目	内容	講師(敬称略)
7/26 (金) 午前の部は「福祉教育をミ〜in彩の国」と合同	9:30-9:45	基調説明	開講式・オリエンテーション①	事務局
	9:45-10:30		県教育委員会としての福祉教育への取組みについて説明します。	県教育局指導部指導課 ・小中学校担当 指導主事 日向哲郎 ・高校担当 指導主事 石川 薫
	10:40-12:15	福祉教育概論1	福祉教育の今日的な意義と課題を総論的に学習します	東京国際大学 人間社会学部 助教授 原田正樹
	13:15-13:30	福祉教育演習1	オリエンテーション②	事務局
	13:30-15:30		福祉教育の実践課題をワークショップ形式で学習します	(フシリター) 東京国際大学 助教授 原田正樹 (アシスタント) 彩の国福祉教育推進員ネットワーク世話人会
15:45-16:30 「市町村福祉教育・ボランティア学習研修」実施に向けた準備説明会(市町村社協のみ出席)				
8/19 (月)	9:30-16:30 (途中昼食休憩 [12-13時]を除く)	福祉教育演習2	福祉教育における学習援助者の視点について、ワークショップ形式で学習します	・聖泉短期大学 専任講師(生涯学習研究所 SOUP 代表) 山本 克彦
8/22 (木)	9:30-10:30	福祉教育概論2	福祉教育「ア」の考え方と視点を学習します	日本福祉教育専門学校 専任講師 佐藤 陽
	10:45-11:45	福祉教育概論3	福祉教育を“社会福祉”の側面から学習します	法政大学 実習指導 講師 松山 毅
	12:45-14:15	福祉教育概論4	福祉教育を“教育”の側面から学習します	東京都小平市立 小平第二小学校 校長 山下 敏夫
	14:25-16:30	福祉教育演習3	福祉体験学習を自ら体感するためにまちを探索します	(フシリター) 彩の国福祉教育推進員ネットワーク世話会 (コメディター) 日本福祉教育専門学校 教員 佐藤 陽
8/23 (金)	9:30-11:30	福祉教育演習4	グループ毎にプログラムを作成します	埼玉大学 専任講師 保正友子
	11:30-14:30	福祉教育演習5	「ア」の実施を学習するためにまちを探索します	同上
	15:00-16:30	福祉教育演習6	振り返りをします	同上

期日	時間	科目	内容	講師(敬称略)
8/27 (火)	9:30-12:00	福祉教育方法1	地域での福祉教育ネットワークの展開方法を、今までの推進員認定者の活動事例を通して学習します(活動発表)	【フシリター】 東京国際大学 助教授 原田正樹  【活動発表者】 ①橘川市立北小学校 教諭 倉品幸二(第二期推進員) ②手話すみれ(越谷市) 石川喜代子(第二期推進員、聴覚障害者) ③三芳町社会福祉協議会 専門員 相磯道彦(第一期推進員)
	13:00-14:45	福祉教育方法2	福祉教育推進員の役割や、福祉教育の展望と推進課題(理論の整理と視点)について学習します。	東京国際大学 助教授 原田正樹
	14:50-15:30		・閉講式及び認定証交付 ・今後の推進員としての活動説明(推進員「ア」等)	事務局
	15:45-16:45	「市町村福祉教育研修講師予定者のための福祉教育勉強会」(参加自由) 「市区町村ボランティア活動事業連絡会議」(2市町村社協のみ)		

## 埼玉県福祉教育・ボランティア学習 推進員養成研修 実施要綱

現在、社会福祉制度の抜本的改革が進められ、住民の主体的な地域活動がますます求められています。また、平成14年からは「総合的な学習の時間」「完全学校週5日制」の導入をはじめとした教育改革が進められる中で、地域における子どもの生きる力の育成が期待されています。このような中で、地域ぐるみで福祉を身近なものとして体験学習することで、住民の意識を高め、ふくしのまちづくりを進めることが必要になっています。

一方、地域での福祉教育・ボランティア学習のニーズが高まっているにもかかわらず、対応するべき関係者の育成が十分とはいえない状況にあります。関係者が豊かな福祉観を持つことで更に充実した福祉教育事業の推進が求められています。

本研修では、関係者の役割を相互理解するとともに、“自身の福祉観を振り返ることで、福祉教育の本質を正しく捉え、福祉教育の目的を明確に設定した実践”について学習し、福祉教育・ボランティア学習の推進を支援することを目的とします。

(平成14年「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」実施要綱より)

この年の受講生 97名の属性は「小学校教員・中学校教員・社協職員・福祉サービス利用者・福祉施設・ボランティア・社会教育(教育委員会)等。この後養成研修は、期間やカリキュラムを変更しながら2010年まで毎夏行なわれ、837名の推進員が誕生した。

# 2001(平成13)年度

## 彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク設立

2000年9月、埼玉県社会福祉協議会の養成研修後「福祉教育・ボランティア学習推進員」第1期生が認定されたのち、各地のさまざまな立場の推進員から情報交換や研修の場や連携が必要だとの声が上がった。その声を受けて、2001年の第2期生にも呼びかけ、「彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク」が設立された。設立にあたっては、県社協および原田正樹氏(現日本福祉大学学長)から多大な助言や支援をいただいた。通称「あったかウェルねっと」は、県内でさまざまな立場の人たちが出会い、交流・学習の場をつくり、豊かな福祉観を育て合いながら、福祉教育を推進していくコツを見つけ、ねっとの輪が広がるよう活動を開始した。会員は、2001年の推進員養成研修受講後の推進員認定者有志で設立したが、2017年からは規定の研修15時間以上の修了者の有志も加わり、現在の活動に至る。

### 2001年10月27日 設立総会

#### 設立趣旨

地域での「福祉」を身近なもの、幅広いものと捉えて、効果的な福祉教育を展開させていくために、会員・関係者たちが協力し合い、「福祉教育・ボランティア学習推進」の場を設け、互いに資質を向上させ、誰もが地域で、自分らしく「生きる力」を培っていけるよう、福祉のまちづくりに向けてネットし合い、柔軟に、ゆるやかに活動していく。

#### 事業目標

1. 県社協主催の養成講座等を修了した「福祉教育・ボランティア学習推進員」の仲間づくり、関係づくりのネットワークを作る。
2. 地域の社会資源を生かした「地域の福祉力」を高めていけるよう、推進員同士が情報交換などを通して、柔軟な連携を図る。
3. 「福祉教育・ボランティア学習の理念」の理解を県民へ広げ、子どもから大人への福祉教育、「福祉の心」の育成を目指す。
4. 県社協等と協同し、福祉教育・ボランティア学習の展開に必要な「スキルの向上」を図る。

### 総会後に第1回スキルアップ研修会開催

「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員の連携」 助言者:原田正樹氏

(2001年以降～現在まで)

☆県社協との協働事業、及び、学習援助者サポート事業(外部団体からの依頼に講師を派遣)を開始  
☆あったかウェルねっと活動チラシ、及び、ニュースレター(2004年以降は会報)等を発行し、推進員・関係者に配布及び情報発信



# 2002(平成14)年度

5月27日

総会・第2回スキルアップ研修会「共に生きる」

講師: 騎西町養護学校教頭 牧野要二氏

7月26日、8月22日

県推進員養成研修に協力(～2010年)

11月14日

埼玉県「彩の国地域福祉大寄り合い」推進員参加

12月8日

県民対象のあったかウエルねっと主催事業

彩の国福祉教育・ボランティア学習研修会‘2002’

“自分が 地域が 好きになる”福祉交流セミナー”

(彩の国すこやかプラザ セミナーホール)

基調講演「生涯学習と福祉教育」講師: 原田正樹氏

共に生きる体験コーナー～論より証拠の体験を～

ワークショップと全体会

ポスターセッション～熱い思いをカタチにしよう～



**彩の国福祉教育・ボランティア学習  
推進ネットワーク研修会2002**

**「自分が、地域が、好きになる」**

福祉交流セミナー☆開催

◎日時 平成14年12月8日(日) 10時～16時

◎場所 彩の国すこやかプラザ 2Fセミナーホール  
(県社協ボランティアセンター)

◎対象 教員・ボランティア・福祉関係職員・  
福祉サービス利用者および興味のある方

◎内容 ①基調講演「生涯学習と福祉教育」  
～みんなの力を福祉教育へ～  
講師: 原田正樹氏 (東京国際大学)

②共に生きる体験コーナー☆  
～論より証拠の体験を～  
疑似体験やボランティア体験

③ワークショップと全体会  
(ポスターセッション)  
～熱い思いをカタチにしよう～

◎費用 1000円

◎定員 120名(申込順)

◎申込方法 Eメール to: boy@nifty.com 又は  
ネット横田 049(281)3161 (TEL:FAO)へ  
※資料作成上 なるべくお早めにお願います  
昼食は各自でご用意ください

◎その他





# 2003(平成15)年度

5月10日

総会&第3回スキルアップ研修会  
(彩の国すこやかプラザ)

「福祉体験の手法 I & II」

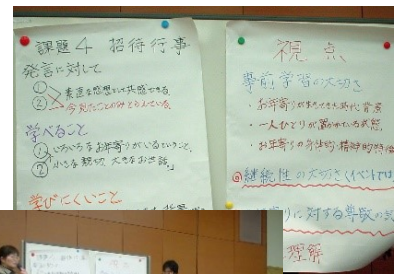
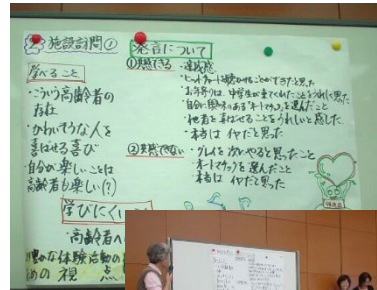
講師:東京国際大学 松本すみ子氏



研修「アイマスク体験の手法:ブラインドウォーク」



研修:ワークショップ「福祉教育プログラムの展開における大切な視点」



11月24日★福祉交流セミナー★

県民対象のあったかウェルねっと主催事業

‘地域をつなぐ あったかはあと’

福祉交流セミナー

(彩の国すこやかプラザ)



2003~2011年 県総合教育センターへの協力事業

「埼玉県高等学校初任者研修」

講義:福祉教育の意義と進め方

演習:「体験学習の実際」

会場:県総合教育センター





# 2004(平成16)年度

5月8日

総会・第4回スキルアップ研修会「心病む人への理解」

講師:天野宗和氏(埼玉県立精神保健福祉センター  
精神保健部長)



ワークショップ風景



ねっと会報の発行

「あったかウェルねっとニュース第1号」

2004年7月13日発行

メーリングリスト開設

いつでも会員相互の情報交換ができるよう

「あったかウェルねっとメーリングリスト」を開設。



ねっと会報第1号の紙面

グループディスカッション「地域で何ができるか考えてみよう」は、地域で『心の病を理解する』ことの大切さと福祉課題について学び合いました。

ホームページ開設

ジオシティーズ(GeoCities)無料スペースを利用し、情報発信を始めた。

2004年度推進員養成研修協力(埼玉県民健康センター)

8月2日「疑似体験のイロハについて」を担当

(体験グッズの使用方法や初歩的な体験方法の手法)

8月3日 疑似体験で「まち探検」のアシスタントを担当

→以降2010年まで毎年協力



あったか はあと彩の国から発信!

10月15日(すこやかプラザ)第10回関東ブロックボランティア活動推進連絡会議第3分科会 事例発表 横田八枝子



11月13~14日第4回全国障害者スポーツ大会(熊谷市)

「あったか はあと彩の国から発信!」ふれあい広場に出店、展示・体験等で来場者と福祉交流



手話で交流

2005年1月16日

2004年度県推進員フォローアップ研修(主催:県社協/共催あったかウェルねっと)(すこやかプラザ セミナーホール)

講義:「誰もが安心して暮らせる地域を作るために、福祉教育ができること」松本すみ子氏(東京国際大学)

演習:あったかウェルねっと「アイスブレイクを有効に使おう!」